

# 主体的に活動する力を育てる 学級活動の指導に関する研究

— 目的を実現させるためのグループ活動の指導の工夫をとおして —

一関市立弥栄小学校 教諭 佐々木 伸 也

## I 研究目的

小学校の学級活動のねらいは、児童が自分たちの学級や学校の生活の充実と向上を目指すとともに、健全な生活態度を身に付ける活動をとおして、集団の一員としての自覚を深めながら自主的、実践的な態度を育成することにある。そのためには、児童が集団活動をとおして相互にかかわり合う中で自己のモチベーションを生かし、主体的に活動する力を育てることが大切である。

しかし、本校児童の実態をみると、与えられた活動に対する役割は果たすものの、意欲が持続せず活動が停滞しがちであったり、発想や工夫を生かしきれず活動に高まりがみられなかったりする状況にある。これは、児童に自己の活動が学級の向上に役立っていることに気付かせずにいたことや、目的を明確にしたり児童の意見や特性を生かしたりする集団活動をつくっていく指導が十分には行われてこなかったことによると考えられる。

このような状況を改善するためには、自己の役割と集団活動との結び付きを理解させ、集団の中で児童が特性を発揮できるような指導を行うことが必要である。そのためには、行事の企画・準備の段階に、目的を実現させるためのグループ活動を意図的、計画的に組み込み、その活動をとおしてグループ相互の成果を交流し合い、児童に有用感と充実感をもたせることが大切である。

そこで、この研究は、小学校の学級活動において、目的を実現させるためのグループ活動の指導の工夫をとおして、主体的に活動する力を育てる指導の在り方を明らかにし、学級活動の指導の充実に役立てようとするものである。

## II 研究仮説

学級活動において、行事の企画・準備の段階に、グループ活動の指導を次のように行えば、主体的に活動する力を育てることができるであろう。

- 1 目的を実現するまでの方法や手順について見通しをもたせるグループ活動計画書を作らせ、その計画書を基に活動を振り返らせる。
- 2 個々のモチベーションを生かす役割分担の仕方を話し合わせ、話し合ったことを基に自己の特性を生かした行動目標を立案させ活動に取り組ませる。
- 3 グループと其中における自己の活動を振り返らせ交流し、さらにグループ相互の活動を交流して成果を認め合わせる。

## III 研究の内容と方法

- 1 研究の内容
  - (1) 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する基本構想の立案
  - (2) 目的を実現させるためのグループ活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察

- (3) 目的を実現させるためのグループ活動を取り入れた学級活動の手だての試案作成
- (4) 指導実践
- (5) 実践結果の分析と考察
- (6) 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する研究のまとめ

## 2 研究の方法

- (1) 文献法 (2) 質問紙法 (3) 指導実践

## 3 指導実践の対象

一関市立弥栄小学校 第6学年 1学級 (男子9名 女子4名 計13名)

# IV 研究結果の分析と考察

## 1 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する基本構想

- (1) 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する基本的な考え方

「主体的に活動する」とは、自己の意思、判断に基づいて活動に臨むことである。自己の意思とは、自らの思いや考えのことである。自己の判断とは、獲得した情報を基に自ら行動を選択し決定することである。つまり、他人の言ったことやしたことに従うだけでなく、自ら主体となって考え、自分なりに行動していくことととらえた。学級活動において、児童が活動の主体となり行動できることは、学級の充実と向上を目指す集団活動を行う上で、大切なことであると考えられる。

学級において児童が活動を行う際、活動の目的を明らかにし実現までの道筋を見通せたとき、それに取り組もうとする思いを強めるものである。それぞれの思いや願いが話し合いによって生かされ、役割の分担を経て共同の活動を進める。その過程では、児童一人一人が判断したり行動したりすることが多く、個々のよさが発揮される場面も多く見られる。また、他の児童とのかかわりや活動したことへの振り返りなど、自分自身とその活動とのかかわりを考えるとき、自らのよさや成長への気付きが深まる。さらに、活動の成果を互いに認め合うことで、児童一人一人が集団の充実や向上に役立つことを実感する。皆が認めてくれることで学級の一員として活動がうまくできそうだという期待感をもつことができ、次の活動への意欲を高めることにつながる。

【表1】主体的に活動する力の構成要素

構成要素	児童の姿
見通す意識	活動内容に見通しをもとうとしている
判断する力	自分の考えをもって役割を決めることができる
行動する力	自分なりの仕方でも役割を果たすことができる
期待感	活動に手ごたえを感じる

このような学級活動の一連の取組の中で、「主体的に活動する力」を育てることができる。以上のことから「主体的に活動する力」を【表1】のように四つの構成要素から成り立つと考え、研究を進めることとする。

「見通す意識」とは、これから行う活動内容に見通しをもとうとする意識である。見通す意識が育

【表2】目的を実現させるためのグループ活動における指導の工夫と内容

指導の工夫	内容
1 活動内容に見通しをもたせること	・「グループ活動計画書」の作成により、グループで意見を出し合わせながら、活動の方法や手順について考えさせる
2 児童自らに考えをもたせ、選択、決定の場に臨ませること	・互いのモチベーションを生かす役割分担のキーワードとして、「自分が活躍できる」「やりがいのある(自分が高まる)」「まわりのことを考えることができる」という視点を与える ・学級での話し合いを経て、グループ内の役割分担に臨ませる
3 自分なりの仕方でも行動し、よさや得意なことを発揮できるようにすること	・自分のよさや得意なことを生かした行動目標を立案させ、準備の活動に取り組ませる ・グループ内での交流により、活動の仕方に個々の工夫やよさがあることに目を向けさせる
4 活動に手ごたえを感じるようにすること	・グループ活動計画書を基に、グループと自己の活動を振り返らせ意見交流させる ・活動を互いに紹介し、交流をとおして成果を認め合わせる

つことで目的の実現への大きな力を得ることになると考える。

「判断する力」とは、自分の考えをもって役割を決める力である。直面した選択、決定の場面で適切に判断できることは、役割を分担したり、遂行したりする上で必要なことである。

「行動する力」とは、自分なりの仕方ですべてを果たす力である。活動に取り組む際、個々のもつよさを生かしたり伸ばしたりしながら行動できることは、役割の遂行及び集団活動の充実と向上において大切なことであると考えられる。

「期待感」とは、活動に手ごたえを感じる意識である。活動の進行経過を振り返り、現在の状況を確かめることで得られる「うまくできそうだ」「みんなの役に立ちそうだ」といった手ごたえは、活動後の有用感、充実感につながると考える。

以上のことから、本研究では学級活動における「主体的に活動する力」が育った児童の姿を、「活動の見通しをもち、学級の充実と向上へのかかわりを感じながら、適切な判断と行動ができ、分担された役割の中で自己のモチベーションを発揮する児童」ととらえることとする。

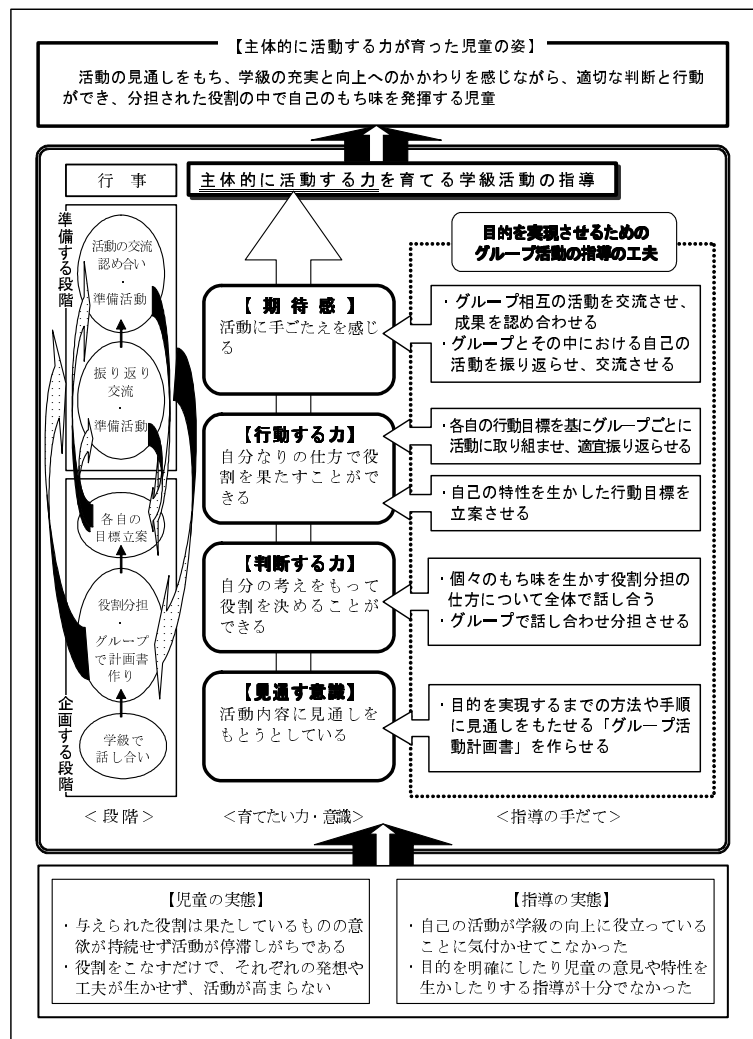
### (2) 目的を実現させるためのグループ活動の指導の意義と内容

グループでの活動は、少人数であるため、成員一人一人の立場がより明確になると同時に、心理的にも結び付きが強くなる。話し合いや相談により、互いのよさや長所の伝え合いが容易になり、共通理解も図りやすい。それは、活動に対する児童一人一人の自発的な参加を促すことにつながると考える。

「目的を実現させるためのグループ活動」とは、グループ活動の利点を生かし、児童が活動に主体的に取り組みながら目的を実現できるようにするために指導の工夫を位置付けた活動のことである。その工夫として前頁【表2】のように四点を考えた。



【図1】 目的を実現させるためのグループ活動の指導の進め方



【図2】 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する基本構想図

以上のように、目的を実現する過程は活動目的に一步步近づいていくことであり、自己実現の過程でもある。したがって、集団活動である行事を企画・準備する段階で、「目的を実現させるためのグループ活動」を取り入れて、構成要素である四つの力や意識を高める指導を行うことは、児童に主体的に活動する力を育てる上で意義のあることと考える。

(3) 目的を実現させるためのグループ活動の指導の進め方

主体的に活動する力を育てるために、行事に向けての取組の過程に、「企画する段階」と「準備する段階」の二つの段階を設定し、学級活動におけるグループ活動の指導を行うこととした。前頁【図1】がそれをまとめたものである。

(4) 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことをまとめたものが前頁【図2】である。

2 目的を実現させるためのグループ活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察（本資料では省略）

3 目的を実現させるためのグループ活動を取り入れた学級活動の手だての試案

(1) 手だての試案

実態調査の結果明らかになった手だての試案作成上の配慮事項は【表3】のとおりである。それを基に、目的を実現させるためのグループ活動を取り入れた学級活動の手だての試案を【図3】のように作成した。

(2) 検証計画及び調査計画

手だての試案の妥当性をみるために検証計画を次頁【表4】のように作成した（本資料では、手だてにかかわる意識調査は省略）。

【表3】実態調査の観点と手だての試案作成上の配慮事項

観 点	配 慮 事 項
話し合い活動に関する意識の実態	①グループ活動の人数を3、4人に編成する ②話し合いや交流の場面では、考えを引き出し、まとめるための「話し合いカード」を活用させ、抵抗感を少なくするために受容的な態度で発言を聞くよう指導する
役割を決めることに関する意識の実態	③役割分担の話し合いでは、児童から考えを引き出し、多様な考えに触れさせながら新たな視点を与えるようにする
他者の特性のとりえ方に関する実態	④準備の活動に取り組ませる際には、グループ内で互いの特性に目を向けさせ認め合わせることで、各自の性格や技能にかかわるよさについても生かせるようにする

段 階	活動の流れ	活 動 内 容	支 援 の 工 夫 (①～④は【表3】に対応)
事 前			
企 画 する 段 階	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の目的を確かめる</li> <li>活動の内容について考える</li> <li>自分の役割を決める</li> <li>活動内容に見通しをもつ</li> </ul>	<p>&lt;学級活動①&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体で、行事の目的、内容と方法について話し合う</li> <li>グループの編成をする</li> <li>グループで活動内容について話し合い、イメージを膨らませる</li> </ul> <p>&lt;学級活動②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体で役割分担の仕方について話し合う</li> <li>個々の持ち味を生かす役割分担の仕方について考える</li> <li>グループで話し合い、役割分担をする</li> </ul> <p>&lt;学級活動③&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動計画書を作成する</li> <li>各自の行動目標を立案する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～4人のグループとする ①</li> <li>個々の思いや願いが生かされるよう、各自が考えた目的をグループ内で交流させる</li> <li>話し合いでは、自分の考えを引き出し、まとめることができる「話し合いおたすけカード」を使用する ②</li> <li>役割分担の仕方の話し合いでは、多様な考えを児童から引き出す ③</li> <li>互いのよさや得意なことを生かしたり伸ばしたりできる分担の仕方について、新たな視点を与える ③</li> <li>行動目標立案では、自分のよさや得意なことを取り入れ、活動に取り組む際に生かしたり伸ばしたりすることができるようにする</li> </ul>
準 備 する 段 階	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半の準備の活動に取り組む</li> <li>活動を振り返る</li> <li>後半の準備の活動に取り組む</li> <li>互いの活動の様子を知り、成果を認め合う</li> </ul>	<p>《準備の活動（前半）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動計画書及び、各自の行動目標に基づいて準備の活動に取り組む</li> </ul> <p>&lt;学級活動④&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動計画書を基に、これまでの活動を振り返る</li> <li>振り返ったことを交流する</li> </ul> <p>《準備の活動（後半）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動計画書及び、各自の行動目標に基づいて準備の活動に取り組む</li> </ul> <p>&lt;学級活動⑤&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を振り返る</li> <li>グループ相互に活動の様子を紹介し合う</li> <li>意見交流し、互いに成果を認め合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会にその日の活動内容や行動目標を確かめさせ、休み時間に準備の活動に取り組ませる</li> <li>帰りの会にその日の活動を振り返らせ記録させる ④</li> <li>グループ活動計画書や各自の行動目標を振り返らせることで当初の目的や活動状況を確認させ、修正すべき点を明らかにし、さらに活動を進めていくことができるようにする ④</li> <li>準備の後半の活動では、学級活動④で振り返ったことを踏まえさせ、取り組ませる</li> <li>振り返りと交流活動では、個々の活動と集団の向上とのかかわりに目を向けさせる</li> <li>活動の成果に着目させた交流をさせることで、互いのよさやがんばりの認め合いができるようにする</li> </ul>
事 後			

「注」ゴシック体は指導の手だてを示す

【図3】目的を実現させるためのグループ活動を取り入れた学級活動の手だての試案

【表4】主体的に活動する力の育成状況の検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
活動の各段階における「主体的に活動する力」の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通す意識</li> <li>・判断する力</li> <li>・行動する力</li> <li>・期待感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が活動の中で使用した「今日の記録」（振り返りカード）への記述内容</li> <li>・ビデオでとらえた児童の行動の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【表5】の判断基準を用いて児童の記述内容及び行動の様子から各段階における状況をとらえ分析し、考察する</li> </ul>
指導実践の前後における「主体的に活動する力」の育成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通す意識</li> <li>・期待感</li> <li>・判断する力</li> <li>・行動する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評定尺度の質問紙</li> <li>・質問紙「注」調査は「ミニ会議と発表会」の後に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイン検定を用いて、指導実践の前後における育成状況をとらえ分析し、考察する</li> <li>・【表5】の判断基準を用いて児童の記述内容及び行動の様子から指導実践の前後における育成状況を総合的にとらえ分析し、考察する</li> </ul>

【表5】主体的に活動する力をとらえるための判断基準

構成要素 (状況をとらえる方法)	評価規準	判断基準		
		A	B	C
見通す意識 (記述内容)	活動内容に見通しをもっている	計画や見通しから今後の活動内容に目を向け取り組もうとしている <記述例> ・計画したように、自分の役目の～をがんばりたい ・～を成功に向けて～取り組みたい	今後の活動内容に対して自分なりに目を向けている <記述例> ・自分なりにこれからの活動に目を向けている記述 ・～をがんばろう ・～うまくできるかな ・～をやるう	見通しをもとうとしていない <記述例> ・何をするのかどうでもいい ・どうやっていいのかわからない ・的外れな記述
判断する力 (記述内容及び行動の様子)	自分の考えをもって役割を決めることができる	自分の考えをもって適切に役割を選択、決定することができる <記述例> ・自分のよさを生かしたり伸ばしたりする視点(やりがい)からの記述 ・活動の充実を考えた視点(仲間への思いやり・必要性)の視点からの記述 <行動例> ・積極的に話し合いに参加することができる ・自分の考えを示しながら話し合うことができる	自分の考えをもって役割を選択、決定することができる <記述例> ・自分なりの考えが含まれている記述 ・好き ・やりたい ・やったことがある ・できる <行動例> ・話し合いに参加している ・その役割をしたい理由を自分で話すことができる	自分の考えをもって役割を選択、決定することができない <記述例> ・自分の考えがほとんど含まれていない記述 ・何となく ・人に言われて ・理由はない <行動例> ・自分からは選ぶことができない ・人に言われるまま ・話し合いに関心がない
行動する力 (記述内容及び行動の様子)	自分なりの仕方です役割を果たすことができる	自分のよさを生かしたり伸ばしたりしながら役割を果たすことができる <記述例> ・活動をよりよくするためや自分のよさを生かしたり伸ばしたりする点に触れてある記述 <行動例> ・やり方に工夫を施し、活動の良し悪しに目を向けながら行動することができる	自分なりの仕方です役割を果たすことができる <記述例> ・自分なりに注意した点についての記述 <行動例> ・自分なりの仕方です活動に取り組み行動することができる	自分では役割を果たすことができない <記述例> ・果たすことができなかった理由に関する記述 ・記述なし <行動例> ・自分では活動しようとしな ・漫然と取り組み、活動に対して注意散漫
期待感 (記述内容)	自己の活動に手ごたえを感じる	活動状況から、本番に向けて強く前向きな気持ちになっている <記述例> ・次の活動や本番に取り組もうとする思いを強く感じる記述 ・きつとうまくできるはず ・絶対成功させたい ・なんとかして完成したい ・目標を達成させたい	活動状況から、本番に向けて前向きな気持ちになっている <記述例> ・次の活動や本番に目を向けての記述 ・～いきたい ・～うまくできそう ・～よさそう ・～がんばろう	活動状況から、本番に向けて前向きな気持ちになっていない <記述例> ・どうせだめだろう ・できないかもしれない ・どうでもいい
	グループや学級の一員としての活動に手ごたえを感じる	グループや学級とのかかわりから手ごたえを強く感じる <記述例> ・他の人やグループの活動の成果やがんばりを認め、具体的にとらえている記述	グループや学級とのかかわりから手ごたえを感じる <記述例> ・他の人やグループのがんばりに目を向けている記述	グループや学級とのかかわりから手ごたえを感じない <記述例> ・他の人やグループのがんばりに目を向けていない ・否定的にとらえている記述

#### 4 指導実践

- (1) 指導計画（本資料では省略）
- (2) 指導実践の概要

手だての試案に基づいて作成した学習指導案（本資料では省略）に従い、指導実践を行った。指導実践は、児童会集会活動、すなわち全校児童で行う全校児童集会「弥栄っ子遊び」と呼ばれる活動に向けての取組として、学級活動の時間を中心に行った。目的を実現させるためのグループ活動を取り入れた学級活動の指導実践の概要を【資料1】として6、7頁に示した。

「注」

は活動内容

は指導の手だて

は児童の言葉

は教師の支援

を、それぞれ示す

行事の目的、内容と方法について話し合う <学級活動①>

1 行事の内容について全体で話し合う

6年生の役割は、遊びを考えて準備することです。みなさん、がんばりましょう



議題の提案

2 昨年の反省を踏まえ、自分の思いから行事への目的を明らかにしてグループで交流する

《記述》

全校のみんなが楽しく仲よくなれる遊びを考えよう



活動の目的を思案中

考えをまとめるための「話し合いおたすけカード」へ記入させた

3 活動内容についてグループで話し合う

この遊び、おもしろそうだね



遊びの内容の相談中

低学年も高学年も楽しめる遊びにしようよ!

ちょっと難しいんじゃない!

役割を決める <学級活動②>

1 学級全体で役割分担の仕方について話し合う

もち味を生かす役割分担のキーワード：  
・「自分が活躍できる」  
・「やりがいのある(自分が高まる)」  
・「まわりを考慮することができる」  
を視点とし、与えた

ぼくは、みんなの役に立つかどうかを考えています



全体での話し合い

2 グループごとに話し合い、役割分担をする

「君のいいところは、行動力のあるところだよ」



よさや得意なことを教え合い、生かせるようにする活動を導入した

きれいな看板を作りたいな



分かりやすくルールを説明するのがぼくの役目

ぼくは、みんなを盛り上げる役目かな

役割分担の話し合い

活動内容に見通しをもつ<学級活動③>

1 グループごとに「グループ活動計画書」を作成する

ルールは、今週中に考えておこうよ!

看板を書くのに、画用紙と横書き紙が必要だな...



意見を出し合って検討中



計画書への記入

完成までの方法や手順、活動日を項目にあげること、児童に見通しをもたせるような話し合いができるようにした(表の面の一部分)

個々に計画書に書かせることで自分の考えをもつことができるようにした

3 遊びの内容

(遊び名) 手つなぎ"おに	(用意するもの) ・紅白ほうし
(遊び方、場所) 校庭のトラック(半分) 手をつないで、おにになてい る人は、一人にならない(かぎ) 何組でもかえる事ができる	(できあがるまで) ①ルールをくわしく決める ②コートを決める。 ③実行
↓おにのまわ しは、おににほうしを紅にぬ。 そのほかは...	(役割分担) ④ルール決め ⑤実行 ⑥コート決め ⑦ルールを紙に書く

2 自己の特性を生かした「行動目標」を立案する

月/日( )	集まる時	みんなですること	私の行動目標 どんなこと どのように
9/19(金)	休み	準備	ルールを一年生から六年生まで決めるルールにする。
9/22(月)	〃	準備	発言を多くして、自分の意見をみんなに伝える。
9/24(水)	〃	ためし	全校のみんなが楽しめるかどうかを確かめ、ためしてみよう。

行動目標の中に自分のよさや得意なことを取り入れさせた(裏の面の一部分)

「どんなことを」「どのように」取り組むのかという視点を与え、内容を具体的にした



行動目標立案中



準備の活動（前半）

< 休み時間 >

行動目標を基に準備の活動に取り組ませた

《記述》  
みんなの意見をしっかり聞き、話し合いでは自分の考えを言おう (g児)

《記述》  
発言を多くして、自分の意見をみんなに伝えよう (d児)



《記述》  
分担してスムーズに準備しよう (e児)

手前の2人は看板を作る係  
奥の2人はルールを考える係

《記述》  
みんなが見やすいように分かりやすく書こう (a児)

児童の行動の様子  
d児…ルールづくりに工夫を施そうとする  
g児…まわりから助言をもらい取り組む  
a児…書く活動に自ら参加し、集中している  
e児…やや消極的、早く終わらせようとする

準備の活動（後半）

< 休み時間 >



試しの遊び



反省会

学級活動④での振り返りをとおして得た修正点に着目させ、後半の活動に取り組ませた



ルール説明の練習中

《記述》  
みんな安全にできるかどうかを試してみよう

これまでの活動を振り返る

< 学級活動④ >

1 グループ活動計画書を基にして、各自が前半の準備の活動を振り返る



計画書を基に振り返る

・活動状況を確認させた  
・グループ及び自分の活動を「よかった点◎」「反省点△」に分けて振り返らせた  
・友だちのよさやがんばりに目を向けさせて話し合させた

2 グループで振り返り、意見交流する

《記述》◎新しい遊びをみんなで考えることができたこと △話し合いの時、うるさかったこと



グループで振り返る



グループの様子を発表し、交流する

《記述》◎自分の考えを言い、いい話し合いができたこと △説明をもっとわかりやすくすること

《記述》  
結構進んできた  
完成まであきらめずがんばろう！



活動の様子を交流し、成果を認め合う

< 学級活動⑤ >

1 これまでの活動の様子を紹介し合い、互いの活動の成果を知る



活動の様子を発表中

《記述》  
みんな、がんばっていたんだ



他のグループの発表を聞く

友だちのがんばりや工夫、よさに目を向けさせ、成果に着目させた

2 感想や励ましの言葉を交流し、成果を認め合う

ぼくたちのグループよりもすごく工夫があるし、よくがんばっていてすごいなあと思いました



互いに感想や励ましを言う



「本番がんばるぞ」

行事の本番へ

## 5 実践結果の分析と考察

### (1) 活動の各段階における主体的に活動する力の状況

- ア 企画する段階における「見通す意識」の状況（本資料では省略）
- イ 企画する段階における「判断する力」の状況（本資料では省略）
- ウ 準備する段階における「行動する力」の状況

【表6】は、行動する力にかかわる児童の記述内容及び行動の様子を、準備する段階の前半と後半に分けてまとめたものである。前半は、判定Aが6名、Bが5名、Cが2名である。後半は、判定Aが9名、Bが4名であり、Cはいなかった。

この結果から、前半ではCであった2名も含め、活動の後半になり全員が自分なりの仕方で行動できるようになったことが分かる。このことから、自己の特性を生かした行動目標を立案して活動に取り組ませたことにより、役割を果たす上で、自分なりの工夫を施すことができ、特に後半にかけて行動する力を高めることができたと考える。また、f児の記述「自分の行動力を準備に活かしてみんなを盛り上げていくこと」にみられるように、自分のよさを生かそうとする行動も増えてきた。これは、グループ内での意見交流による考えの広がりや目標と自己評価の繰り返しの効果によるものとする。

【表6】 行動する力の状況

N=13 (単位：人)

児童	前半の活動			後半の活動		
	自分なりに工夫できたことの記述	行動の様子	判定	自分なりに工夫できたことの記述	行動の様子	判定
a	ルールをまとめて書くこと。	活動に自ら進んで参加している。自分の役目（ルールの説明をきれいに書く）に集中し、黙々とこなしている。	B	ルールをきれいに画用紙に書くことや王様輪がしドッチボールのハンディを入れたルールを考えること。	考えたルールに欠点がないか詳しく確かめる。うまく行きそうか先を見通す。自分で考え自分で行動していた。役目は終わっていた。	A
b	できるだけふつうのルールとは違うものをつくりだすこと。	今までにない新しいものをつくり出そうとユニークなアイデア（新ルール）を次々だし検討してもらっている。	A	今までにない新ルール（「手つなぎおに」で途中で分かれる）など、面白くなるように工夫し、がんばった。	ルールを紙に分かりやすく（ふりがなをふって）書く。今までにない新ルールに注目してもらえよう目立つ工夫を入れる。	A
c	ルール決め。	とにかくやってみる。強引過ぎるためまわりに文句を言われるが、行動力を発揮する。イメージしルールを考えるが、危険、難度を考慮できずじける。	B	あまりできなかったと思っているけど、がんばったつもりだ。	ライン引き。自分から進んで行動。コートの大ささにこだわりをもつ。水をかけようとするが濡れているため行わず。	A
d	自分たちだけではなく、全校のことを考えながらやっていた。	全校のリーダーの立場から、常に低学年のことを視野にいれルールづくりに工夫を施そうとする。場所の確認で、外ではなく体育館を提案。	A	話し合いでは、積極的にいい意見を出したし、みんなの相談にのってあげたこと。	時間を惜しみながらできばさと練習をする。低学年役を引き受け、イメージを膨らませて楽しくリハーサルに臨んでいた。	A
e	低・高学年関係なく遊べるようなハンディルールづくり。	活動には消極的。早く終わらせて遊びたい。自分のことはやっている。	B	よさを発揮できた。	今日で準備を終わらせようと思い取り組むが早く終わらせたい気持ちが強く、身が入らず。ルール説明の仕方をやるが、工夫はなし。	B
f	自分の意見をはっきりみんなに言ったり他の人と協力したりした。	実際にやってみながら、新しいアイデアを練り出し、みんなを納得させる。盛り上げ役として遊びを楽しむものにしてうとがんばっている。	A	できた。自分の行動力を準備に活かしてみんなを盛り上げていくこと。特別ルールも分かってもらえて説明した方がいい。	ルールをチェックする。問題点をさがす。リハーサルの提案をする。	A
g	くわしい説明を書いたことと、協力したこと。	積極的に行動する姿があり。ルール説明の仕方を工夫できないか考え、まわりからのアドバイスをよく取り入れていた。よさを生かそうとしている。	A	あまり出せなかった。でも話し合いの中で、自分の意見を言えた。	自分の本番での役目をしっかり決めて練習する。体育館での活動を想定し、道具の準備や遊びで困りそうなことを考えた。	B
h	コートがこの前6人でやったけど、せまくなかったかどうか。	自分で考え、行動目標にないことまでも積極的に実行している。（看板作り、ルール説明書き）何度もまわりをフォローしている。	A	計画やルールづくりを書くことをきちんとできた。実際にやってみて自分の考えも発揮できたと思う。	ルールを紙に書き、完成させる。新ルールが特に目立つよう話し方や試技の仕方の練習をする。工夫あり。目標を超える活動ぶり。	A
i	絵を丁寧になぞること。	自分からはなかなかやり始めようとはしない。教師の声がけや励まし、まわりからの導きがあると活動する。すぐ友達にちよっかいを出そうとする。	C	あまりできなかった。	ルールを書いていた。人に言われながらもなぞる。それでも仕事をもらい一生懸命果たしていた。	B
j	絵をかみいらしくした。ルールの説明書を見やすく大きくきれいに書いた。	自分の仕事に熱心に取り組んでいる。ルールの説明書きの仕事は工夫しながら（色、絵、言葉遣い）楽しそうにやる。まわりへの指示もある。	A	大きな声で説明の練習をしてきた。おもしろい遊びの名前をつけ。やってみて危なくないようにマットを敷くことを考えた。	遊ぶ人の気持ちになって遊んでみる。マットを用意するなど、危険に対する工夫をこらす。	A
k	低学年でも遊べるルールづくり。	仲よく活動できている。自分の役割（仕事）よりもまわりが気になり、すぐ口出しをするが、メンバーに言われながら協力して活動していた。実際にやってみる活動は嬉しそう。	C	ルール決めによさを使った。	ライン引きを意気込んで行う。体を使っての作業を楽しんで行う。指示されたことをこなす。	B
l	低学年でも分かりやすく、看板を大きな字でカラフルにした。	自立したいが、自分のすることを決めて、それを自分でがんばって取り組んだ。看板書きの色、絵を工夫した。楽しい雰囲気をつくっている。	B	ルールを書いたりしたこと。きちんと自分の役割をはっきりとがんばった。	しっかりまじめに練習に取り組む。ふざけた仲間を注意してまじめにやらせようとする。目標を守ろうとする。	A
m	どんどん発言ができたこと。	グループの中ではリーダー的に活動していた。話し合いではよく発言し、まとめながらよい方向に導いていた。	B	発揮できたのは、発言力や指示の仕方など。考えることでも発揮したかも。	ライン引きを素早く終わらせる。動きがよくなった。仲間のこだわりを自分のことのように共に話し合っていた。	A

【注】1 指導実践で使用した「今日の記録」（前半は「今日の記録④」、後半は「今日の記録⑤」）への児童の記述内容と、教師の観察による児童の行動の様子を【表5】の判断基準を用いてA、B、Cに判定した

【注】2 ゴシック体はA判定と判断した根拠の部分を示す

- エ 準備する段階における「期待感」の状況（本資料では省略）

### (2) 指導実践の前後における主体的に活動する力の育成状況

- ア 指導実践の前後における「見通す意識」の育成状況

次頁【表7】は、グループ活動計画書の作成を取り入れたグループ活動による、事前と事後での見通す意識の育成状況の調査結果である。



サイン検定の結果、「何をどのようにすればうまくいきそうかを考えるかどうかの調査」において有意差が認められた。したがって、グループ活動計画書の作成は有効に働いたものとする。このことから、グループ活動計画書の作成を取り入れ、自分たちの活動に対して方法や手順を明らかにする取り組みをさせたことは、活動内容に見通しをもととする意識を育てる上で効果があったと考える。

#### イ 指導実践の前後における「判断する力」の育成状況

【表8】は、児童一人一人のモチ味を生かす役割分担の仕方についての話し合いを取り入れたグループ活動による、事前と事後での判断する力の育成状況についての調査結果である。

この結果から、13名のうち5名がプラスの変化を示していること、事前には判定Cの児童が2名いたが、事後にはどちらもBへ変化していることが分かる。これは、役割分担の仕方についての話し合いにより多様な考えに触れさせ、新たな視点をもたせたことが有効に働いたものとする。このことから、児童一人一人のモチ味を生かす役割分担の仕方についての話し合いを取り入れたグループ活動を行わせたことは、自分の考えをもって役割を決める力を育てる上で効果があったと考える。

#### ウ 指導実践の前後における「行動する力」の育成状況

【表9】は、自己の特性を生かした行動目標の立案を取り入れたグループ活動による、事前と事後での行動する力の育成状況についての調査結果である。

この結果から、13名のうち6名がプラスの変化を示していること、事前には判定Cの児童が3名いたが、事後には全てBへ変化していることが分かる。これは、行動目標を立てて活動に取り寄せたことが有効に働いたものとする。このことから、自己の特性を生かした行動目標の立案を取り入れ、グループとかかわらせながら役割に取り寄せたことは、自分なりの仕方ですべて役割を果たす力を育てる上で効果があったと考える。

#### エ 指導実践の前後における「期待感」の育成状況

次頁【表10】は、振り返りと交流を取り入れたグループ活動による、事前と事後での期待感の育成状況について、二つの観点からとらえた調査結果である。

サイン検定(両側検定による)の結果、「うまくできそうだという気持ちができるかどうかの調査」において、有意差は認められなかった。これは、グループと其中における自己の活動を振り返らせ交流することで、これまでの活動に手ごたえを感じる児童がいた一方で、現在の活動状況に対する課題や不満に直面する児童がおり、準備活動の後半での問題解決を図る支援が十分でなかったことを意味するものである。

一方、「自分がしていることでみんなの活動がよくなっていると感じるかどうかの調査」においては、有意差が認められた。このことから、グループ相互の活動の様子を紹介し、交流をとおして活動の成果を認め合わせたことは、集団の一員としての手ごたえを感じさせる上で効果があったと考える。

二つの観点からの調査において、どちらも13名のうち7名以上の児童にプラスの変化があったこと

【表7】見通す意識の育成状況  
N=13 (単位:人)

		事後					検定値	有意差
		ア	イ	ウ	エ	計		
事前	ア	2	0	0	0	2	2.47	*
	イ	3	3	0	0	6		
	ウ	3	2	0	0	5		
	エ	0	0	0	0	0		
計		8	5	0	0	13		

「注」1 事前調査は9月12日に、事後調査は10月3日に実施した  
「注」2 調査はアを最上位とする4肢選択で行い、ア・イはプラス反応、ウ・エはマイナス反応を示す  
「注」3 \*は、有意水準5%で有意差が認められたことを示す  
「注」4 サイン検定に用いた公式は次のとおりである  

$$z = \frac{|L_1 - L_2| - 1}{\sqrt{L_1 + L_2}}$$
事前から事後への+変化をL<sub>1</sub>、-変化をL<sub>2</sub>とする

【表8】判断する力の育成状況  
N=13 (単位:人)

		事後			
		A	B	C	計
事前	A	5	0	0	5
	B	3	3	0	6
	C	0	2	0	2
	計	8	5	0	13

「注」1 Aは「十分育っている」、Bは「概ね育っている」、Cは「育っているとはいえない」の意味を示す  
「注」2 質問紙への記述内容を【表5】の判断基準を用いて判定した

【表9】行動する力の育成状況  
N=13 (単位:人)

		事後			
		A	B	C	計
事前	A	3	1	0	4
	B	3	3	0	6
	C	0	3	0	3
	計	6	7	0	13

「注」1 Aは「十分育っている」、Bは「概ね育っている」、Cは「育っているとはいえない」の意味を示す  
「注」2 質問紙への記述内容を【表5】の判断基準を用いて判定した

から、振り返りと交流を取り入れたグループ活動を行わせたことは、特に集団とのかかわりにおいて、活動に手ごたえを感じる意識を高める上で効果があったと考える。

## 6 主体的に活動する力を育てる学級活動の指導に関する研究のまとめ

手だての試案に基づく指導実践から明らかになったことは以下のとおりである。

- (1) 行事を企画する段階で「グループ活動計画書」の作成を取り入れたグループ活動を行わせたことにより、自分たちの活動内容に対して見通しをもととする児童が増えたこと。
- (2) 個々のモチ味を生かす役割分担の仕方についての話し合いを取り入れたグループ活動を行わせたことにより、自分の考えをもって分担に臨ませることができ、その考えを基に選択、決定することができる児童が増えたこと。
- (3) 自己の特性を生かした行動目標の立案を取り入れ、グループとのかかわらせながら各自の活動に取り組みさせたことにより、活動の仕方を工夫でき、よさを生かそうとする児童が増えたこと。
- (4) グループ活動計画書を基に、意見交流を取り入れた振り返りの活動を行わせたことにより、活動状況を確認、互いの認め合いができ、活動に手ごたえを感じる児童が増えたこと。
- (5) グループ相互に活動の様子を紹介し感想や励ましの交流をとおして成果を認め合う活動を行わせたことにより、自己の活動と集団の向上とのかかわりから手ごたえを感じる児童が増えたこと。
- (6) 集団活動において、児童が役割を適切に選択、決定できるように、活動へのかかわらせ方を具体的に考えさせたり、個に応じた支援を工夫したりすること。
- (7) 児童が十分に活動への手ごたえを感じるようにするために、活動上の問題解決を図るグループ活動の支援を工夫すること。

以上のことから、学級活動において、目的を実現させるためのグループ活動を取り入れていくことは、児童が自己の役割と集団活動との結び付きを理解することや集団の中で自己の特性を発揮しながら活動できることを促し、主体的に活動する力を育てる上で有効であると考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本研究の結果、研究仮説の有効性を実践的に確かめることができた。そのことによって、目的を実現させるためのグループ活動の指導の工夫をとおして、主体的に活動する力を育てる学級活動の指導の在り方について明らかにし、小学校の学級活動の指導の充実に役立てることができた。

### 2 今後の課題

今後は、課題を踏まえながら、更に児童が集団とのかかわりの中で自己のモチ味を発揮することができるような活動及び指導の仕組み方を工夫し、研究を発展させていく必要がある。

### 【主な参考文献】

梶田叡一著 「〈自己〉を育てる－真の主体性の確立」 金子書房 1996年

【表 10】 期待感の育成状況

N=13 (単位:人)

		事後					検定値	有意差
		ア	イ	ウ	エ	計		
事前	ア	1	0	0	0	1	1.77	—
	イ	6	4	1	0	11		
	ウ	0	0	0	0	0		
	エ	1	0	0	0	1		
	計	8	4	1	0	13		
□自分がしていることでみんなの活動がよくなっていると感じるかどうかの調査(集団の一員としての手ごたえ)								
		事後					検定値	有意差
		ア	イ	ウ	エ	計		
事前	ア	1	0	0	0	1	2.67	*
	イ	0	3	0	0	3		
	ウ	4	4	0	0	8		
	エ	0	1	0	0	1		
	計	5	8	0	0	13		
「注」1 事前調査は9月12日、事後調査は10月3日に実施した 「注」2 調査はアを最上位とする4肢選択で行い、ア・イはプラス反応、ウ・エはマイナス反応を示す 「注」3・4 【表7】と同じ								